

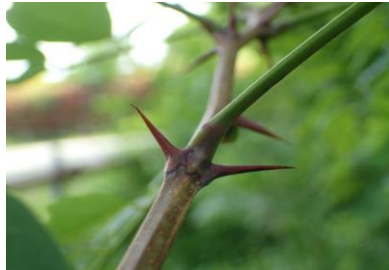


1 植生調査

● 伐採検討のニセアカシア(マメ科)の幼木を確認し、赤いテープで目印を付けました。



公園入口左右にそれぞれ幼木を確認。かなり大きく成長した幼木が数本あり、伐採検討対象として、赤いテープを付けました。ワタラセツリフネ草地近くのフェンス沿いでも確認しています。



エンジュ(別名ニガキ)の木に似ていますが、針状の棘があることから、ハリエンジュの名でも知られています。



棘は、葉柄の付け根の托葉(葉のようなもの)が変形したもので、木がある程度成長すると、痕跡が無くなるようです。

● カシナガ被害の為、ネットで覆うなどして対策がとられたコナラのその後の様子を確認しました。



ノジトラノオ草地从り道を挟んで南側の被害木8番。カシナガキクイムシの幼虫の穿孔により、樹皮外に噴出したフラス(木くず)がたくさん見えます。



掩体壕エリアの19番。『ごきぶりホイホイ』の粘性を用いた『かしながホイホイ』(アース製薬)には、まだ目立った貼り付きはありません。



弁天池横の切り株では、羽化したとみられる多数のカシナガキクイムシ(成虫)の脱出が確認されました。ここ数日の気温と直射日光により、殆ど死んでいるものとみられます。



● 植物



コマユミ(ニシキギ科)
弁天池横で見つけました。



クモキリソウ(ラン科)
弁天池沿い園路の東側に、4株確認しました。



ササバギンラン(ラン科)
クモキリソウの周辺に見られました。



シオデ(サルトリイバラ科)
ノジトラノオ草地及びワタラセツリフネ草地にて。自立することができず、周辺の草木に巻きひげを絡ませて成長します。これから花を咲かせます。



マムシグサ(サトイモ科)
花期が終わり、トウモロコシのような果実が顔をのぞかせています。秋に真っ赤に彩るのが楽しみです。

● 第一近隣公園にて



移植したズミが元気に育っていました。



アカメガシワ(トウダイグサ科)
パイオニア植物であるこの木は、雌雄異株。ちょうど花を咲かせ始めていますが、周辺のアカメガシワは、どれも雄株のようです。



この木も雄株でした。花には、多数の雄しべが見られます。



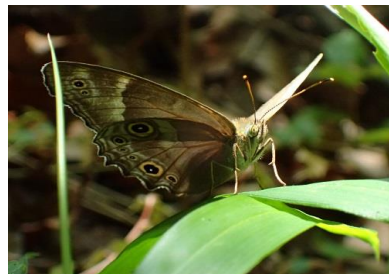
ノキシノブ(ウラボシ科)
一般的なシダの仲間とは違い、地面に根を下ろさず、他の樹木や岩、時には文字通り民家の軒下に着床します。葉の裏が特徴的で、2列に並んだ胞子の袋が見られます。



● 昆虫



ナナフシモドキ(ナナフシ科)
成虫になるまで、もう一息のようです。



ヒカゲチョウ(タテハチョウ科)
ちょうど羽化したての綺麗な個体が飛んでいます。



ナミアゲハ(アゲハチョウ科)幼虫
イヌザンショウの葉にいました。緑色のが終齢です。



シロシタホタルガ(マダラガ科)
近似のホタルガより、前翅の白いラインが上の方にあり、シロシタの名前の通り、後翅(下翅)に白い紋があります。



クリアアナキゾウムシ(ゾウムシ科)
幼虫が、クリなどの木の中で育ちます。



アナキゾウムシの仲間は、象の鼻のような頭部が特徴的ですが、正面から見ると、ちょっと違った印象ですね。



イチモンジカメノコハムシ(ハムシ科)の幼虫
脱皮した殻を、背中につけて身を守ります。
この個体は、殻の数から、4回脱皮をしたことが
分かります。右下は成虫の写真。



オオナミモンマダラハマキ(ハマキガ科)
こんぶくろ池からワタラセツリフネの草地に向か
う園路に複数いました。エスニックな柄の10mm
にも満たない小さな蛾ですが、葉の上でクルクル
回ったり、後ろ向きに歩いたり、さながらマイケ
ル・ジャクソンのようです。



クワコ(カイゴガ科)の幼虫
野生の蚕です。若齢の幼虫は、アゲハの幼虫と
同じように、まるで小鳥の糞のよう。(擬態)
冬、食草である桑の木が葉を落とすと、白っぽい
クワコの繭がぶら下がっているのをよく見かけます。

2 ヒキヨモギの移植



ノジトラノオ草地に定着しているヒキヨモギ

ヒキヨモギ(ハマウツボ科)

ヨモギの葉にとってもよく似ていますが、ヨモギは
キク科、ヒキヨモギはハマウツボ科で全く異なる種
だそうです。

イネ科の植物の根に寄生し養分を得ますが、自
分でも光合成を行うので自力でも生きていける
という半寄生植物です。全国的にも数を減らして
いる希少種とのこと。8月～9月に、可愛い
小さな黄色い花を咲かせます。



ヒキヨモギの葉



ヨモギの葉



東側園路近くのヒキヨモギをノジトラノオの
草地に移植しました。



イネ科の植物と、根元でつながって
いる様子が、なんとなく分かります。



移植完了。

● 半寄生植物 …ノジトラノオの草地には、他にも2種の半寄生植物がありました。



カナビキソウ(ビャクダン科)
イネ科やマメ科に寄生する。
花期は4月～6月。



コシオガマ(ハマウツボ科)
多様な宿主に寄生できることから
モデル寄生植物として研究に用いら
れることが多いようです。
花期は9月～10月。



コシオガマは、触ると指にベタベタとくっつく感じがあります。
写真を拡大してみると、先が丸くなった線毛が密生していました。
こんな歯ブラシありましたね。